

女性初の会長として



平成 29 年度育友会長 とうひらゆたみ 東平豊三

私が育友会活動に参加したのは、娘の入学式に配布された育友会のアンケートに「育友会活動に興味がある」と記載したことがきっかけでした。育友会事務局からお電話があり、内容もよくわかっていないのに二つ返事で承諾しました。大学の父母活動というものにとっても興味があったことと、希望校に合格できず、落ち込んでいた娘のためにも大学を知りたいと思ったからでした。

1年次は父母幹事として、『育友会奨励賞選考委員』を務めさせていただきました。学生のスポーツやボランティア、難関試験等にチャレンジした子供たちの、想いのこもった応募論文を評価・審査しました。他の選考委員の方々も熱心で、白熱した意見を交換し選出していきました。審査段階で想像していた学生方と、表彰式でお会いしたときは特別な感動がありました。それからは彼らと懇親会で話すことが毎年の楽しみでした。一方、奨励賞選考委員会として務めさせていただいていた1年次に病気を患い、最後のほうはあまり委員会に参加できなくなりました。そんなこともあり、輝かしい奨励賞と病気がセットで思い浮かぶのが少し残念です。

2年次より常任役員に選出いただき、「お休み処・育友」委員会に携わらせていただきました。その頃はまさに手術後の闘病中で、無理のできない状況でした。気力体力が衰えてしばらく鬱々とする日々が続きました。そのように苦しい時期も育友会で出会った本部役員、教職員、支部役員との利害関係のない真摯なお付き合いが私自身の励みになり、精神的な支えになってくれました。活動の中で、議論し、役割を分担し合い、悩みを聞いていただいたり、本部や支部の先輩役員や後輩役員の方々、同期役員との仕事を離れてのお付き合いは貴重な時間となりました。

4年生で会長にご推薦いただいた時は、自分自身の体調のこともあり、お引き受けできるのかずいぶん悩みました。ですが、今まで女性が一度も会長に就任していないとお伺いし、なかなかできることではないですし、今後の女性役員のためにも初の女性会長に就任させていただこうと決意しました。

やはり女性初ということで注目していただき、何年も前の旧育友会役員の方から励ましのお手紙も頂戴しました。そんな時は、過去の先輩方の活動に水を差すようなことがないようにと身の引き締まる思いがしました。

会長の役割は思っていた以上に多岐に亘り、かなりの重責でした。大学の行事へ数多く参加させていただき、校友会の行事にもご招待いただきましたが、大先輩方を前に至らないことばかりだったのではないかと感じております。今ようやく肩の荷を下ろすことができ、寂しさもありますが、ほっとする気持ちの方が少し強いかもしれません。

この4年間の育友会活動の中で、本部、支部役員の方々をはじめ、多くの方々との出会いがありました。自分一人の力では何もできませんが、皆さんに手を差しのべていただき、声をかけていただき、何とかやってこられたらと思っております。それらの出会いと経験がこれからの私の人生の糧となってくれと感じます。

さて、最後になりますが、育友会活動の4年間、多大なるご支援、ご協力をいただきました本部役員、各支部役員をはじめとする育友会員の皆様、ご指導、ご鞭撻をいただきました大学の教職員、校友会の役員の皆様、そして、多くの支えをいただきました育友会事務局、校友会事務局の皆様、心から御礼を申し上げ、退任の挨拶とさせていただきます。